

Future Earth 研究プログラム

恒久国際事務局日本設置決定

－ 5ヶ国連携事務局の一翼 －

7月2日、国際科学会議(ICSU)等から、Future Earth 研究プログラムの恒久国際事務局に、日本(日本学術会議を代表とするコンソーシアム)も加わった5ヶ国による分散型連携事務局連合が選ばれたとの発表がありました。Future Earth とは、今後 10 年間の国際的研究プログラムで、未来の地球という人類にとって究極の大テーマを掲げ、地球環境と人間生活全体を対象とした新たな地球環境研究の枠組みです。地球環境変動という社会的な大課題に対し、人文社会科学と自然科学の研究者の連携に加え、社会の各層と共に取組み、共に解決策を考えていくという野心的な構想になっています。多国分散型連携事務局は日本、カナダ、フランス、スウェーデン、アメリカの5ヶ国の研究機関等により形成され、平成27年1月から Future Earth 恒久国際事務局を担うこととなります。あわせてアジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、中東北アフリカの 4 地域事務局のうちアジア地域事務局も日本(総合地球環境学研究所)に設置されることが発表されました。

事務局は、調整、連絡・啓蒙、研究促進、能力開発(人材育成)、統合・展望の 5 つ機能を柱として、Future Earth の研究運営を支えていくこととなります。

5ヶ国の国際本部事務局のリード機関は

- ・カナダ(モントリオールインターナショナル)
- ・フランス(高等教育研究省)
- ・日本(日本学術会議)
- ・スウェーデン(王立スウェーデン科学アカデミー)
- ・アメリカ(コロラド大学(ボルダー)、コロラド州立大学(フォートコリンズ))

地域事務局のコーディネート機関は

- ・アジア(総合地球環境学研究所)
- ・ヨーロッパ(ティンダル気候変動研究センター)
- ・ラテンアメリカ(インターアメリカン地球変化研究所)
- ・中東北アフリカ(キプロス研究所)

また、Future Earth を人的・資金的に支える持続可能な地球社会のための科学と技術アライアンスの構成機関は、以下の団体です。

- ・国際科学会議(ICSU: International Council for Science)
- ・国際社会科学評議会(ISSC: International Social Science Council)
- ・IGFA(地球変動問題出資機関国際グループ)、ベルモント・フォーラム:研究資金提供機関のネットワーク組織
- ・国際連合教育科学文化機関 ユネスコ(UNESCO: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)
- ・国際連合環境計画(UNEP: United Nations Environmental Programme)
- ・国際連合大学(UNU: United Nations University)
- ・世界気象機関(WMO: World Meteorological Organization)

詳細につきましては、国際科学会議(ICSU)のHP(<http://www.icsu.org/news-centre/news/top-news/future-earth-to-get-globally-distributed-secretariat>)をご覧ください。